

令和7年度 多摩市レイキャビク市との姉妹都市提携検討市民懇談会 第1回 要点録

開催日時・場所	令和8年1月7日(水) 13:00~15:00 中央図書館活動室1	
参加委員	参加委員 7名 赤澤委員、大島委員、京増委員、齊木委員、柴山委員、春田委員、宮嶋委員	
出席職員	くらしと文化部長、文化・生涯学習推進課長、事務局2名	
主な内容	次第0	委員長・副委員長互選
	次第1	これまでのアイスランド交流について
	次第2	姉妹都市締結について
	次第3	その他
議題	主な意見 (●事務局、◎委員長、○副委員長、◇委員)	
次第0 委員長・副委員長互選	<p>委員長、副委員長、それぞれ互選によって選任。全委員、了承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長 柴山 由理子 氏 ・副委員長 春田 祐子 氏 	
次第1 これまでのアイスラ ンド交流について	<p>●事務局：これまでのアイスランド交流について説明を行い、確認された。</p> <p>◇委員：写真展を開催した。きれいな風景写真なのでお客様も足を止めて見てくれていた。アイスランドウィークでは「スキル」の試食販売を行った。普段は高価であまり売れないが、試食をきっかけに多くの方が購入した。</p> <p>◎委員長：五感を刺激するイベント。スキルは現地のスーパーでもたくさん並んでいる人気商品。風景も、火山活動によってできた独特の地形で非常に面白い。</p> <p>◇委員：大使をお呼びして約30分の講演会や、オリンピック選手団の事前キャンプの動画上映などを行った。参加者からは「もっと Q&A の時間が欲しかった」という声が多く、関心の高さがうかがえた。</p> <p>◇委員：先日、フィンランドへ乗り継ぐ際、同じ飛行機にアイスランドへ向かう人たちもいた。オーロラや火山の話を聞いたが、やはり遠いという印象がある。</p> <p>◎委員長：首都レイキャビクでオーロラが見られるのが魅力の一つ。</p>	
次第2 姉妹都市締結につい て	<p>●事務局：他自治体の事例や多摩市の考え方について説明を行った。</p> <p>◇委員：そもそも姉妹都市を締結することで何を目指すのか、という根本的な議論が必要だ。①先進的な行政・地域運営ノウハウの入手、②青少年の国際対応能力の育成、③多文化共生社会づくりへの寄与、④経済的利益（観光誘致など）など、我々が得るものと同時に、多摩市として何を提供できるのかを考える必要がある。一方で、市民アンケートにもあったように、費用面などのデメリットも考慮し、バランスを見極めることが重要だ。</p>	

◇委員：アイスランドの講座を開催した際のアンケートでは、ジェンダー・ギヤップ指数世界一、再生可能エネルギー、豊かな自然など「見習うべき点が多い」という肯定的な意見が多かった。アイスランドは人口に対して本屋が多いと聞く。多摩市の中央図書館が2024年7月に開館し、多摩市内の書店と図書館の連携企画も始まったので、そういった文化的な面での交流もいいのではないか。

◇委員：食文化の観点では、アイスランドの食材は輸入されているものが少なく、あっても割高で、積極的に取り入れるのは難しい面がある。また、渡航のハードルも高く、観光資源として市民にメリットを提示しにくい。ジェンダー平等や環境政策など、なぜアイスランドなのかという必然性を市民に分かりやすく説明する必要があるのではないか。

◎委員長：アイスランドは一人当たりのGDPが非常に高く、再生可能エネルギーで自国のエネルギーを賄っている、豊かで住みやすい国。小さい国だからこそ、独自の自然環境を活かした観光戦略が非常に上手い。ただ、食のような分かりやすい魅力は少し伝えにくいかもしれない。

◇委員：市内小中学校では、これまでアイスランドにちなんだ給食を提供したこともある。

ESD（持続可能な開発のための教育）やグローバル教育の推進に大きなメリットがある。環境、国際理解、平和、ジェンダーなど、アイスランドが先進的に取り組んでいるテーマは子どもたちの学びに直結する。オンラインでの交流など、具体的な活動を通じて子どもたちの視野を広げられる。ただ、時差の問題は、子どもたちの交流において課題となる。

◇委員：スウェーデンとデンマークに行ったが、ヨーロッパの子どもたちは皆英語で積極的に交流していた。日本の子どもたちも、最初は戸惑いながらも、翻訳アプリなどを使ってコミュニケーションを取ろうと必死だった。帰国後、子どもたち全員が「英語を本気で勉強する」と言っており、わずか1週間でも海外での経験の影響力は絶大だと感じた。

もし姉妹都市提携によって、子どもたちが留学できるような制度ができれば、ノウハウも蓄積され、より多くの機会を提供できる。費用はかかるが、それ以上の価値がある。また、海外から見ると「多摩市」の知名度は低いが、「TOKYO」の知名度は高い。東京の一部である多摩市に訪れてもらうことは、相手方にとっても大きなメリットになるはずだ。

○副委員長：子どもたちが交流する上で「スポーツ」や「食」といった共通の話題があると入りやすい。姉妹都市提携を考える上でも、市民が納得しやすい共通のテーマを見つけることが重要ではないか。また、アイスランドは平和教育にも熱心で、8月9日の原爆の日には灯籠流しを行っていると聞く。

	<p>そういう点も交流のテーマになりうる。</p> <p>◎委員長：オリンピックのキャンプ地決めの際、他の北欧諸国からは九州の自治体の人気が高かったが、アイスランドは大使館も小さいため、九州だとやり取りが大変だろうとのことで、東京の中の多摩市を選んだと聞いた。都心にもすぐ出られ、他の自治体にも新幹線で行きやすい、でも大都市ではないので人々の生活も感じられる。他の北欧諸国とともに九州に行かず、アイスランドは多摩市を選んだ。</p> <p>◇委員：多摩市も「とかいなか」としてPRしている。</p> <p>◎委員長：教育、文化、スポーツ、経済など様々な分野での可能性と、費用や市民参加などの課題が浮き彫りになった。特に、子どもたちの教育や国際感覚の育成に大きな期待が寄せられていること、また、交流を進める上での「共通のテーマ」の重要性が確認できた。アイスランドは小国であるがゆえに、自国の言語や文化を守ろうとするアイデンティティが非常に強い。「ノルディックビルディング」という考え方が浸透しており、それが国の魅力や先進的な取り組みにも繋がっている。</p> <p>◇委員：一つ懸念点として、レイキャビクはアイスランドを代表する首都だが、多摩市は日本を代表しているとは言えない。こちらでのイベントには大使が来てくれても、あちらでイベントを行う際に、日本の大使が同じように協力してくれるかは分からぬ。そういう立場の非対称性も考慮する必要がある。</p>
次第3 その他	<p>●事務局：次回懇談会は1月26日（月）に開催予定。今回いただいた意見を基に、事務局が報告書（案）を作成し、次回懇談会で最終的な取りまとめを行う。</p>